

AIIT ALUMNI COMMUNITY 2025

# 「未来の移動デザイン」の発展研究 成果報告

---

## Project Theme

### 地域交通課題(交通空白)とモビリティ価値の検討

- 対象期間：2025年4月～3月
- 創造技術コース 修了生9名・在学生1名
- 成果報告文責：発起人・石丸裕太

## 01. MISSION & CONTEXT

# PBLの熱量をそのままに 修了後も続く学びと実践

在学中の「未来の移動デザイン」研究を発展させ、  
構造的な地域課題を多角的な視点から再設計することを目指す。

# 活動の背景と目的: 学びと実践の継続

## 研究テーマ:「未来の移動デザイン」の発展研究

AIITで培った問題発見・解決の姿勢を修了後も継続し、実践的な学びの場として運営。これまで提案してきたモビリティ案の具体化に向けた研究・試作の継続、ならびに関連領域への探究の幅を広げる活動を行う。

- 🚗 在学中のPBLで取り組んだ研究活動を発展・継続
- 🚗 SDGsの視点を含む持続可能な社会構築を意識
- 🚗 移動を個人の利便性だけでなく、地域社会や環境との関係性の中で再定義

## 活動の焦点

地域交通(交通空白)を対象テーマとし、具体地域・ペルソナ設定を通じて課題の解像度を上げながら、利用促進や地域価値創出につながるアイデア検討を実施した。



### 活動メンバー (創造技術コース修了生・在学生)

石丸裕太 (25.3修了)	岡田将敬 (25.3修了)
佐藤寛信 (25.3修了)	西田岳史 (25.3修了)
山田紘子 (25.3修了)	吉川絢 (25.3修了)
鈴木裕児 (24.3修了)	田中健太郎 (24.3修了)
北浦宏之 (在校生→25.9修了)	高井美園 (24.3修了)

### 指導教官

河西 大介 准教授      高嶋 晋治 特任教授

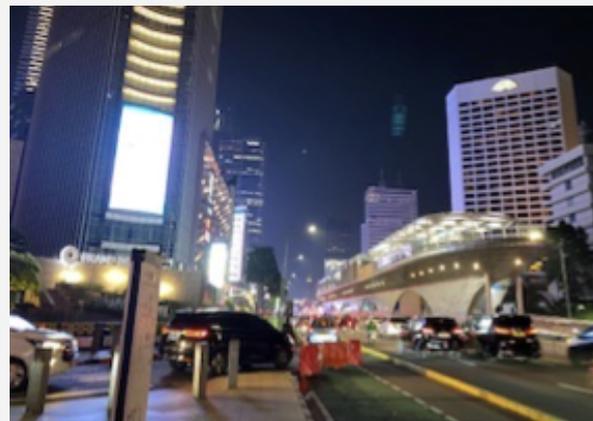
# 活動概要:実践的な検討プロセス

## 月次定例ミーティングでの協働

- ✈ メンバーが各々持ち寄りテーマの共有ディスカッションを実施
- ✈ 昨年・一昨年のPBLの取り組みの共有深掘りの実施
- ✈ 外部のコンペティションへの参加やリサーチの実施
- ✈ 行政資料や公開資料・事例の参照やリサーチの実施
- ✈ 外部の展示会(JMS2025)や2025年度のPBL展示会などに参加

## 多角的な視点の取り込み

- ✈ 同じテーマを扱った世代の違うBLメンバーによる発展探究
- ✈ 海外都市(マニラ、ホーチミン、ジャカルタ等)の現地交通事情レポート
- ✈ 社会学(モビリティスタディ)的視点からも「移動」を考察
- ✈ 決済基盤や運用コストなど、実装条件も含めて検討



# 活動の軌跡(2025年4月-2月)

4月-6月

コミュニティ運営開始  
テーマ検討  
コンペ提出

9月-10月

コンペ検討  
リサーチ  
イベント参加  
文献研究

1月-2月

テーマ討議  
PBL展示会見学

7月-8月

テーマ発散と収束  
リサーチ  
海外事例共有

11月-12月

テーマ討議  
コンペ検討  
アウトプット討議

## 定例MTG11回実施

(2025.4.-2026.2)

## 02. ACTIVITIES & RESEARCH

# 「移動」が持つ「価値」と 探究

卒業年度、年代、経歴も違うAIIIT卒業生・在校生かつ大所帯でのコミュニティであることから、メンバーそれぞれの興味関心領域の探究とコミュニティ継続運営の方法を様々探索を行った。

# 主要トピック①: 外部コンペティション応募・検討

## 応募したコンペティション

「電動化で変わる！中山間地域の未来—持続可能で活気あふれる街づくり」by マツダ

詳細: <https://www.wemake.jp/projects/199>

HONDA「IGNITION CHALLENGE 2025」

詳細: [https://global.honda/jp/ignition/public\\_submission/](https://global.honda/jp/ignition/public_submission/)

残念ながら一次審査通過できなかった  
(即日実証実験可能な企画が求められたため)

## 検討・見送ったコンペティション

国土交通省R7年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」

詳細: [https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12\\_hh\\_000452.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000452.html)

TOYOTA「Toyota Woven City Challenge」

詳細

: <https://www.woven-city.global/jpn/people/inventors/woven-city-challenge/#aboutTheChallenge>

内部での検討の結果、時間的な制約や内容を  
考慮して応募を断念

### Key Insight

昨年、一昨年のPBL活動で取り組んだ内容の具体化・具現化の機会として外部のコンペ等に応募・検討を行った。公募情報をタイムリーに取得すべき点や応募までのスケジュール引きなどで課題や検討事項などが見つかった。引き続き応募等は前向きに検討したい。

## 主要トピック②: 海外交通事情の共有

### #世界の交通事情 vol.01(マニラ・ホーチミン・ジャカルタ)

- 🛵 マニラ：老朽化した鉄道と、ジープニー等の多様な乗り物が混在
- 🛵 ホーチミン：初の地下鉄が開業間近、国産EVタクシー・バイクが急増
- 🛵 ジャカルタ：専用道バスや高速鉄道など、先進的な輸送網を展開
- 🛵 東南アジア共通：ライドシェアが浸透、中韓のEV車両が急速に拡大

### #世界の交通事情 vol.02(上海)

- 🛵 上海の交通インフラ：地下鉄・EVタクシー・シェアサイクルが高度に整備
- 🛵 モビリティの電動化：車やバイクのEV化が進行し、都市全体の静音性が向上
- 🛵 決済とアプリ事情：バーコード決済が必須、海外向け地図やカードは制限あり
- 🛵 交通マナーの課題：歩行者優先が少なく、静かな電動車両の接近に注意が必要

### #世界の交通事情 vol.03(タイ)

- 🛵 バンコクの交通インフラ：公共交通が多層化、高層化されている
- 🛵 課題：交通渋滞が深刻。貧富の差が激しい。独自の産業が育っていない。

#### Key Insight

頻繁に海外に渡航するコミュニティメンバーによる現地の交通事情に関するフィールドリサーチを定期的に共有。現地の交通インフラや決済基盤など文化的・経済的背景が交通利用に与える影響などの考察・議論が行われた。



## 主要トピック③: 国土交通省「交通空白」論点でのアイデア検討

国土交通省の「交通空白」解消の公募情報を起点に、応募の可否とは切り分けつつ、訓練としてアイデア検討を実施した。

### 検討の焦点

- 🚗 交通空白地域における移動課題の構造的理解
- 🚗 コミュニティの最終成果物として「未来の目指す姿」の概念イメージを作る方向性についても議論
- 🚗 課題設定は「交通がない」だけでなく、「あるのに使われない理由」まで踏み込むと、打ち手が具体化することを確認した。



### Key Insight

交通空白地域に関して、公共交通が存在しても、生活導線や心理的ハードルにより利用されない構造的欠陥を分析・再定義した。単なる「手段」の提供ではなく、インセンティブや受容性を含めた社会実装・全体設計が必要であると課題の再定義に繋がった。

## 主要トピック④: ケーススタディ(具体地域・ペルソナ設定)

議論を抽象論に留めず、メンバーのケーススタディ（具体的地域・青森県三沢市）や、高齢者（例：90歳・独居）などのペルソナを置いて検討を実施した。

### 設定した前提条件

地域の公共交通の利用実態と限界  
人口流出と高齢化の進行によるインフラ維持の困難  
移動制約による生活への深刻な影響

### 生活者視点での課題整理

買い物、通院など日常生活における切実な移動ニーズ  
既存公共交通の利用障壁（時刻表、料金、物理的アクセス）  
移動制約が生活の質（QOL）に与える影響の可視化

### 重点課題：

生活者視点での「ラストワンマイル」と「移動の動機付け」の不一致



### Key Insight

メンバーの実例から「移動」の価値に関して、ペルソナを置いて議論・検討を実施。その過程で、冬期の移動困難、デジタルの壁、そして「移動を通じた尊厳」の維持。効率性重視の既存交通では救えない層にこそ、デザインの価値が届けられる etc、ユーザー視点での価値の探索を改めて行なった。

## 主要トピック⑤: 行動変容を促す「逆 SUICA」構想(1)

# Point

還元されるモビリティ体験



### 移動を「資産」へ変換する

乗車するほど地域ポイントや健康スコアが還る仕組み。

公共交通を負債ではなく、地域経済と健康の循環エンジンへと再定義する。シルバーパスの枠を超えた、能動的なインセンティブモデルを提案。

# 主要トピック⑤: 行動変容を促す「逆 SUICA」構想(2)

## 逆SUICAとは(1行定義)

公共交通を使うほど、利用者にリワード(ポイント・割引・特典)が返る仕組み。

「運賃を払う」だけでなく、“乗ること自体”を地域にとっての価値ある行動として扱い、利用促進を狙います。

## 何を解決したいのか(背景の課題)

「公共交通があるのに使われていないのは勿体ない」「どうしたら乗ってもらえるか？」が論点

逆SUICAは、その問いに対して、

- ・「価格だけでなく動機を作る」
- ・「乗る理由」を増やす」
- ・「乗る→地域が回る」(外出・消費・健康など)という方向で効く打ち手です。

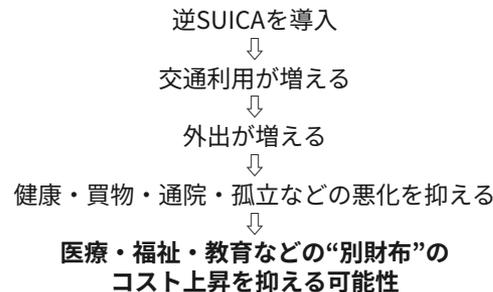
## 仕組みの基本形

1. 交通に乗る  
(バス・鉄道・コミュニティ交通)
2. 利用実績が記録される  
(IC、QR、アプリ、紙でも可)
3. 一定条件で還元される
  - ・ポイント付与
  - ・次回割引
  - ・地域店舗クーポン
  - ・抽選
  - ・スタンプ特典

「逆SUICA的」という表現は、この“乗ると得する”の方向性を指しています。ユーザーに短期的な報酬を与えることで、移動の動機を誘発し、最終的に「移動することの喜び・楽しさ」を実感してもらいつつ移動を経済活動に繋げることを目指す。

## “クロスセクター効果”

過疎地域における公共交通の支出は「赤字補填」ではなく、廃止時に別分野で増えるコストを抑える“地域への支出とも考えられる”



逆SUICAは、行政全体最適(クロスセクター)を狙う利用促進策にもなる

## Key Insight

公共交通が「あるのに使われない」課題に対して、行動変容を促す設計アイデアを中心に議論した。利用促進は制度(価格)だけでなく、インセンティブ設計や「利用する楽しさ」の要素も必要になる。本アイデアから創発され、地方自治体の公共交通に関する公式見解や資料をリサーチすることにも繋がった。

## 設計の論点(今後の検討)

1. 対象者
2. 対象行動
3. 還元の中身
4. 原資(誰が払うか)
5. 運用コスト

# 主要トピック⑥: ジャパンモビリティショー & PBL展示会

## #ジャパンモビリティショー 2025

- 🚲 ラストワンマイル、自動運転、配送ロボット等の潮流を把握
- 🚲 都市部を想定したソリューションが中心、地方課題への視点が希薄
- 🚲 地方課題起点の企画にこそ、独自の価値と社会的意義があることを再確認



## #創造技術コース修了制作展 2025

- 🚲 修了生の立場から現役世代の製作内容を考える
- 🚲 AIを駆使した作品が多く、今後の研究での活用を考えさせられた



### Key Insight

- ・モビリティショーでの展示物から、メンバーが PBLで製作したモビリティとのコンセプトやデザインについて、方向性の類似度・差異を議論した。
- ・2025年度PBLの学外展示を鑑賞し、修了生世代との取り組みプロセスやコンセプトの相違などを確認。展示の見せ方やAIの使い方などの気づきを学ぶことができた。



# 主要トピック⑦: 文献研究『移動と階級』 (伊藤将人著, 講談社現代新書, 2025年5月)

移動にまつわる諸問題や現状に関して、本書を通して社会的視点から現状の理解および先行研究の把握に努めた。

## Movement

A地点からB地点への物理的な移動。独立した事象としての「動き」。

## Mobility

社会的な環境、文脈、背景を包括した移動のあり方。構造的な現象。

### 2億歩

人間が一生の間に歩く平均距離

### 33.3%

過去1年間に居住都道府県以外に旅行していない日本人の割合

### 3.24回

日本人が一生に経験する平均引越し回数。「定住の時代」の象徴

## Mobility Studies

移動を社会現象として捉え、その不平等や構造を分析する学問領域。

## Mobility Justice

移動における正義と公正。誰が、どのように、なぜ移動できるのかを問う。

### 7,500億円

JR東日本 地方路線の赤字額 (36路線72区間)

1872年の開業(29km)から2.7万kmへ拡大した鉄道網は、今や維持コストの増大に直面している。

### 32.1%

都道府県を超える移動の決定権がない女性の割合 (男性は18.6%)

### 19.9%

移動の自由さに満足していない日本人の割合 (5人に1人)

## Mobility Capital

移動は単なる行為ではなく、個人が「所有」し、将来のために「貯蓄」し、必要に応じて「活用」できる資本の一種

過去の移動で得た知識や経験は、次の移動をより容易にする。移動経験が貯まるほど、移動のハードルは下がっていく

「望んだ時に移動できる」という可能性そのものが資本である。これには「移動しない」という選択肢を保持することも含まれる。

### 初任給 15.5ヶ月

自動車取得の経済的障壁

1990年の7.5ヶ月分から約2倍へ

「移動の自由は常に希少で、不平等に分配される商品になりつつある」

— Zygmunt Bauman (2000)

## 現代の変容: 移動の外注化

Uberやデリバリーサービスの普及は、人々が自らの「移動」を他者に外注できるようになったことを意味する。移動資本の多寡は、自ら動かすか、他者を動かすかという階層差を生み出している。

## 移動は「当たり前の権利」から「特権」へ

学力や財産、経験に恵まれた者が、周到的準備を経て初めて享受できる「希少な商品」へと変質している。

### 03. SUMMARY & INSIGHT

# 活動振り返り

「未来の移動デザイン」の研究活動を発展・継続させることを目的に、  
修了後の継続かつ自主的な学修と研究の機会の創出としては一定の結果を残した。

# 成果：本期間で得られた整理

## 外部コンペティション

01

在学中のPBL時には検討できなかった外部イベント・コンペに対して検討やエントリーを行うことができた。

## 多面的アプローチ

02

モビリティに関する海外事例や最新事例、デザインや工学だけでなく社会学や街づくりといった観点などから、より一層「移動」に関して探究を行えた。

## 社会実装条件の重要性

03

運用コストや決済基盤など、実装条件など1年間のPBL活動では考慮できなかった観点からの議論も行うことができた。

## 学修コミュニティ(機会)の継続・維持

04

総勢10名でのコミュニティとなったが、各々が自由に参加しつつ学修・探究・研鑽の場として維持・継続ができた。

## 04. NEXT STEP

# 次年度および今後の予定

本年度の「未来の移動デザイン」研究をより発展させ、  
構造的な地域課題を多角的な視点から再設計することを目指す。

# 今後の方針①: 成果物化の検討・紀要(アウトプット)化

2023年度メンバーがPBL活動をレポート化し紀要論文に掲載しているため、  
2024年度活動についてもアウトプットを残す案が議論された。

## アウトプット方針

### 2024年度活動をベースに

まずは直近の活動内容をベースにアウトプットを作成する。

### コミュニティ活動の切り分け

修了生コミュニティの内容は一旦切り分け、焦点を絞る。

### 知見の形式知化

活動ログと知見を整理し、外部に共有可能な形式で記録する。

## 期待される効果

### 活動の振り返りと知見の言語化

暗黙知となっていた議論のプロセスを言語化し、定着させる。

### 外部発信と連携機会

成果を公開することで、新たな連携やフィードバックの機会を創出する。

### 次年度への蓄積

継続的な学びの土台として、活動履歴を資産化する。

# 今後の方針②:次アクション案

## Action 01

### 提案ストーリーの 統合

- 対象地域・ペルソナを1つに絞り込む
- 課題仮説と打ち手(制度・インセンティブ・体験)を統合してストーリー化する

## Action 02

### 概念イメージの 可視化

- 「未来の目指す姿」を1枚絵(または数枚)で表現
- 成果物として提示できる具体的なビジュアルを作成する

## Action 03

### 説明力の 補強

- 文献・事例(移動格差、公共交通の価値等)を必要最小限添える
- データに基づいた説得力のある提案を目指す

継続的な学びと実践を通じて、社会実装可能な提案の完成を目指す。